

2016 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	英語英文学科	科 目
-----------	--------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

まず基礎となる実施率であるが、昨年度同時期（2015 年秋学期）と比較し教員モードで 1.7%増（96.7%→98.4%）、クラスモードで 5.4%増（92.9%→98.3%）となった。アンケート結果を云々する前にこの実施率が高いことが前提であるので、この点は英語英文学科教員の授業に対する意識の高まりと捉えたい。

さて、結果であるが、質問全 8 項目中（授業レベルに関する問いは除外）、全ての項目において全学平均値と同じであるか、それを上回る好成績であった。統計的有意性を検定したわけではないが、少なくとも昨年より引き続き「**継続的な授業改善**」が見られることは特筆すべき点であろう。

特に、2015 年度秋と比較して差異が大きかったのが「Q9 集中できる雰囲気」で 4.17 →4.37 と+0.20 となっている。

また、全学平均と比較して最も良かったのが「Q1: 授業理解度」であった（4.29 [4.20=全学]）。授業を学生諸姉がよく理解できたのは授業が改善された証左であると考えられる。

一方、「Q4: 授業外学習時間」は全学（0.65 時間）との比較においては高いが（0.74 時間）、国際教養学科（0.90 時間）や薬学部（0.89 時間）と比較すると依然として低い。本学科の学生には、英語をマスターすべく、listening・speaking・reading・writing の 4 つのスキルを徹底的に学習するというはっきりした目標がある。外国語の授業は、予習復習を前提としているので、授業に参加するには、授業をこえて予習や復習をおこなうのが当然であるが、「同じトピックについて読み・聞き・書き・話す」よう、より一層科目間の連携を深めると多種類の科目をバラバラに学ぶよりも、成果が上がると共に、課外で学習する意欲も喚起されるものと考えられる。

本学科の学生による授業に対する評価が比較的高いことが確認できたが、今後取り組むべき方向性として以下 2 点を指摘しておきたい。

- ① 特に ICT（まなばなど）や**協同学習**を授業内外で有機的に組み合わせ、授業の工夫（Q5）を更に進められるよう学科内で授業交換を進める（4.09）。
- ② **質の高い授業**を産み出すために、他大学でも実施されているような授業公開を一層進める。そのために、春学期同様、全専任教員が 2 回程度、極めて短時間（1-2 分）**授業のビデオ撮影**をし、学科内で自由に視聴できるよう検討したい。

最後に、今回の結果に満足するのではなく、授業こそがリベラルアーツ大学の中核であることを再認識し、一層の授業改善に向けて学科内でも意思統一を図りたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター